

「二度咲きしたキンモクセイ(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

私はこのお茶の水女子大学構内のキンモクセイをもう35年も見てきているが、その間、何度か二度咲きを観察した。特に決まった周期はなく、数年に一度起きる現象だ。キンモクセイの二度咲き現象については、「夏季から秋季にかけての気温がキンモクセイの開花に及ぼす影響」(和歌山大学2012)という論文に、詳しい研究が掲載されている。それによると、気温の急激な変化などが要因のようだ。



実はキンモクセイは雌雄異株で、花数の少ない雌株はほとんど植えられていない。本学のものも雄株で、咲いている花もすべて雄花である。従って、あれだけたくさんの花をつけても、一度も実を見ていない。キンモクセイの雌株は、国内では極めて稀で、このあたりでは池袋駅の近くに数本あるだけだ。



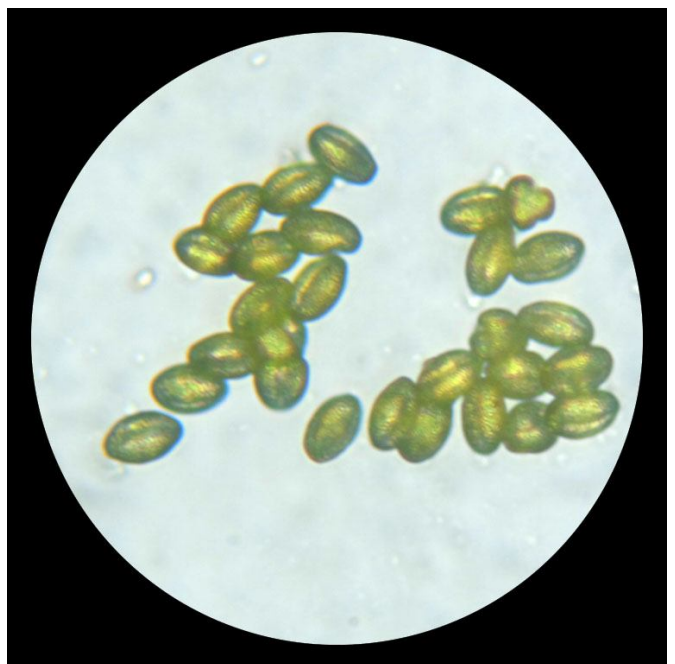
「キンモクセイ雌株についた若い果実」

友人撮影 池袋 2017年冬



これが珍しい「キンモクセイの果実」である。オリーブに近い仲間なので、オリーブの実に似ている。池袋に住んでいる子どもが、わざわざ採って学校に持ってきてくれたのだ。私は、大学に頼んで、いつかキンモクセイの雌株を植えてもらいたいと思っている。

街中や校庭に咲いているキンモクセイはすべて雄花なので、花粉の観察には活用できる。キンモクセイは花の色、強い芳香から考えても虫媒花であるが、花が咲いている時期に、あまり虫を見かけない。子どもたちと観察した時も、テントウムシ、カメムシ、それにシャクガの幼虫ぐらいしか見つからなかった。花粉も直径が0.03mm前後と、マツの花粉と同じぐらいのサイズで、風媒花粉のサイズである。咲いている花の数からしても、もしかしたら風媒花なのかも知れない。



「キンモクセイの花粉」 ×400 約0.03mm